

要 旨

貴州省は中国西南部の高原地帯にある省で、種類多くの民族が和やかにここに生活している。長い歴史の発展過程において、貴州省各民族がお互いに協力し、数々の困難を乗り越えて、貴州省を開発・発展させてきた。最近、中国政府によって打ち出された調和がとれている社会、環境友好型社会と西部大開発戦略は、貴州省の少数民族地域にありがたい発展のチャンスを与えたと同時に、貴州省における持続可能な発展能力の有無が問われる大きな試練でもある。ところで、持続可能な発展は非常に複雑な社会システムのプロジェクトなので、その発展が政策、法律と科学の進歩等からの力強く支えが必要であり、そのうち、法律は最も重要な手段の一つである。現在の貴州省環境保護は主に全国的な環境法律と貴州省の単行条例と自治条例に依拠して調整を規範に合わせる。しかし、中国地域が広大なため、民族は多くて、各地の相違はわりに大きくて、もし全国では地区の相違に関わらず、すべて同様な全国的な環境保護の法律によって規制に来るならば、少数民族の地区の環境保護に対して的確さに不足するかもしれない。それに現行の全国的な中国環境法律は、原則性が強いものの、実効性が弱い。また、貴州省の単行条例と自治条例の大多数の条文規定はすべて比較的に抽象的に可操作性に不足する。貴州少数民族地区に大量の保護生態環境の少数民族の民族慣習が存在しているので、これらの慣習は貴州の環境保護の歴史の上でかつて重要な役割を発揮し、特に貴州省の森林被覆比率をわりに高いレベルで維持している。しかし、社会発展と外来文化の影響ため、この法律文化慣習の実行と伝承することが衝撃を受ける。さらに中国は成文法の国家なため、慣習は司法官の判決する根拠ではなく、習慣の実行することや守ることなどは村民の内心信念に頼るので、国家制定法の強制力がない。以上のような状況を踏まえて、本研究は、環境法の視点から貴州省少数民族地域における環境権利、環境特徴等を明らかにしたうえ、より現地のニーズに適合するような環境保護法制のあり方を模索することを目的としている。

本論文は主に次の方法で研究する。

(1) 実地調査である。筆者は2003年7月より、数回にわたり貴州省に赴き実地調査を行ってきた。現地の村民と相談し、現地における環境保護関係の生の資料を収集し、ピクチャーと文字資料を大量に入手した。

(2) 国際、国内の学術会議を活用することである。山大大学院在学中、筆者は環境法学関係の国際や中国国内学術会議に何回も参加してきた。これらの機会を利用して、最新の環境法学に関する資料を入手し、最新の研究動向を把握することができた。

(3) 実証分析である。中国貴州省少数民族地域における環境保護法制に対して実証研究

を試みる。

中国においては、これまで、貴州省少数民族地域の環境保護法制を対象とする研究は決して十分ではなかった。また、日本においては、このテーマについて、とりわけ環境法の視点からの研究も資料も大変不足している。貴州省少数民族地域の環境保護法制全般を取り上げたものは、本研究が初めての試みとなる。

本論文は4章から構成されている。

第1章「中国貴州省の環境保護と環境問題」である。本章では、まず貴州省地域の特徴、貴州省の環境保護の歴史を簡単に紹介し、次に貴州省環境の現状を述べる。貴州省の環境保護は長年の努力を通じてすでに一定の成果を得たものの、環境保護と経済発展とのジレンマとか、環境法制が不十分なこととか、自身の地理状況ももろくて弱いことなどに制限され、貴州の環境状況は依然として厳しい現状にあることを指摘する。

第2章「中国貴州省少数民族地域における環境保護立法」においては、主に1949年以来、中国の3つの発展時期の環境の立法状況、特徴と貴州省の少数民族地域の自治条例と単行条例の立法状況を紹介する。中国の環境法学理論は20世紀70年代からスタートし、3つの発展時期を経たにもかかわらず、環境問題の抜本的解決にはつながっていない現状の背景と原因を探る。

第3章「中国貴州省少数民族地域環境保護における慣習法の役割」である。本章は主に環境保護における慣習法の役割を検討する。具体的には、まず、実地調査を通じて入手した資料を整理・分析し、少数民族の伝統慣習と生態環境保護との関係を解明する。次に少数民族地区に存在している伝統村民規約（ミャ族の「議榔」とトン族の「トン款」）、現代の村民規約などが環境保護に対して果たしてきた役割を掘り下げる。さらに従江県占里トン族村においてすでに存在した600年の「人口適度な発展の理念」、錦屏県文閣ミャ族村の「林業契約書」等をモデル事例に、少数民族の伝統的な慣習が環境保護において果たす役割やその合理性を実証的に分析する。最後に現代社会においても、環境保護の領域における慣習法の役割と価値を正しく認識する必要があるし、それを活用させることの大切さを主張する。

第4章「貴州省環境法制の残す課題と思考」では、これまでの事実説明や論述に基づいて、中国環境法制の残す課題に対して説明し私見を述べる。

数千年以来現地の環境保護においてすでに重大な役割を果たしたの少数民族の伝統的な慣習法が総括的な制定法に転換されるというような貴州省の環境法制の構築は、貴州少数民族地区の環境保護の規範の面においてもっと重大な役割を果たさせ、貴州の生態環境の持続可能な発展を促進することができると思うのが、本論文の基本的な観点になる。